

風のように

甘木教会



牧師：竹田孝一

13：1 イエスが神殿の境内を出て行かれるとき、弟子の一人が言った。「先生、御覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」 2 イエスは言われた。「これらの大きな建物を見ているのか。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」 マルコによる福音書 13:1～2

【説教要旨】

地震などの天変地異、人間による地球温暖化による気候変動、コロナ世界的流行、中国、ロシア、アメリカによる大国のエゴイズムが丸出しの平和の不安定、ロシアにおけるウクライナ侵略、中国による領土拡張政策による台湾など東アジアの不安定、中東ガザでの紛争、そして、台湾問題、北朝鮮の核が日本の平和をおびやかすところまで来ている。国内も地震、地球温暖化による水害が続き、世界の技術革新の中で私たちの日々が大変化をよぎなくされ、未来を見通せない状況が私たちの中にあります。とても不安です。世界をとりまく状況を考えると世の終わりが来たと感じてもしかたないと思います。そんな中で世の終わりを強調して若い牧師がルーテル教会から分かれて、世の終わりを強調する教会を作りました。

教会の暦は、クリスマス前の聖書日課では、世の終わりについてみ言葉から聞いていきます。今日の教会では世の終わりを終末と表現します。

五木寛之氏と元補佐主教の森一弘司祭の対話集「神の発見」（角川文庫）で、森司祭と五木氏が世の終わりについて話され

ています。

森：「私は、キリストが『世の終わり』について語ったのは、戦乱につぐ戦乱の、当時の社会状況もあったと思いますが、具体的な出来事を想定して言ったのではなく、この世界ははかなく、もろいものだという、もっと深い嘆きというか、想いから出た言葉だと思うのです。」

五木：「たしかに、この世は無常というか、常に、流れ、変化しているものですけど。」

森：「ええ。この世界は永遠、絶対ではなく、キリストが言っているように、『太陽が暗くなり、星は空から墜ち、天地が揺り動かされる』ようなことが、いつ起きてもおかしくない。」

ヘロデ大王が再建したイエスさまの弟子たちが見た壮大な神殿は、いつまでもここにありつつづけ続け、人々を感動させたように弟子たちが同じように感じたことに対して、「イエスは言われた。「これらの大きな建物を見ているのか。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」とイエスさまは言われます。歴史上、ユダヤ戦争で70年、この神殿はローマ軍によって破壊され、今日にきています。その一部が有名な嘆きの壁です。無常であり、この世界は永遠、絶対ではないということです。

では、無常だから何をしても無駄だと言っているのでしょうか。そうではないのです。

森：「キリストはそうは言っていません。ただ、人の一生が、そうした破壊力に呑み込まれたままで終わってしまわないように、『目覚めていなさい』と、繰り返し、繰り返し呼びかけているのです。一瞬一瞬、神に目を向けながら、現実を生きることが、大切なんだと。」

3 イエスがオリーブ山で神殿の方を向いて座っておられると、ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかに尋ねた。4 「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、そのことがすべて実現するときには、どんな徴があるのですか。」 5 イエスは話し始められた。「人に惑わされないよう

に気をつけなさい。 6 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。 7 戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞いても、慌ててはいけない。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。 8 民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、飢饉が起こる。これらは産みの苦しみの始まりである。

人に惑わされないようにと目を覚まして、一瞬一瞬、神に目を向けながら、現実を生きることです。今起きている世の終わりを示すような状況は、確かに起きているが、そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではないというイエスさまの言葉を私たちの心に置きたいのです。一瞬一瞬、神に目を向けながら、現実を生きるここには、産みの苦しみの始まりです。

森：「そして、もう一つ、キリストは同じ文脈のなかで、不法がはびこり、多くの人々の愛が冷える現実を指摘しながら、『最後まで耐え忍ぶ者は救われる』と言っているんです。前後の言葉の流れから、ここで『最後まで耐える』ということは、『愛を失わない』という意味として理解しています。」

産みの苦しみの始まりとは、愛を失わないということです。

戦前の軍国主義、空襲、焦土化した日本から始まり、高度成長、バブル、そして崩壊、経済の停滞と過ぎつつも私たちの生活は出来てきました。しかし、不法がはびこり、多くの人々の愛が冷える現実をいやというほど感じ、味わっています。しかし、たとえそうであってもすべてが空で一瞬に過ぎ去っていくのです。そこで確かなことは私たちという人生の終わりまで、人に惑わされないようにと目を覚まして、一瞬一瞬、神に目を向けながら、神の愛の現実を生きるこここそが、世の終わりを生きるものです。

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りとしています。そ

ればかりでなく、苦難をも誇りとしします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。　ローマの信徒への手紙5：1-5

日毎の糧

16:10 あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく
／あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず

詩篇16：10



ルター之言葉



キリストはあなたの罪を引き受け、あなたのためになるように全くの恩恵からご自身の義によって打ち勝たさう。あなたがこれを信じるなら、罪と死は決してあなたを害することはない。したがって、生命と恩恵の像であるキリストは、死と罪の像に対抗するわたしたちの慰めである。

「生と死の講話」金子晴勇訳 知泉書館

キリストは死と罪の像に対抗する

俳優の西田敏行さんが76歳で亡くなられたことはショックだった。新聞などの死亡記事を見ると意外と70歳代でなくなっている人がいる。「汝、死すべき者」という修道院で交わされる言葉を再確認した。

詩篇16篇は、神への信頼の歌である。神に信頼するもの、私たちとっても、死は人と人との関係を遮断するもののみならず、神と人との関係をも断ち切るものです。しかしこの詩人は神に信頼するものは、死さえ彼を神から引き離すことが出来ないと高らかに歌います。

ルターは「たとえ明日が終わりでも今日、りんごの苗を植える」と希望を語ります。死は私たちを害するものでなく、希望を見るのです。終わりだから今日を大切に生きよう。

祈り：神よ、いつも「汝死すべき者」と自覚させてください。同時にキリストと共に生きる希望を生きる者として東の間の生を大切に生きるようにしてください。アーメン。

牧師室の小窓からのぞいてみると



冬が近づくにも台風が出来たりして、沖縄では大雨に襲われ生活が脅かされた。これも地球温暖化であると思う。

国連気候変動会議がアゼルバイジャンで開かれ、地球規模で温暖化の防止に取りくもうとしているが、アメリカ大統領選では地球温暖化防止のパリ協定から脱退しようとする大統領が選ばれた。これからどうなるのか不安である。

この頃の政治の動きは自国中心主義、エゴイズム塊のように思えてならない。エゴの行きつくところは滅びであると歴史が教えているが、その歴史から学ばないことに虚しさを感じている。

大海も一滴からなるということを忘れず、「自分を愛するように隣人を愛する」というキリストの心の一滴をもって歩みたい。



園長・瞑想？迷走記

幼稚園運営委員会（理事会にあたる）が開かれた。そこで仕事の責任について話された。

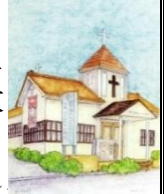
園長の仕事は「謝ることに始まり、謝ることに終わる」、つまり責任を最終的に負うということにあるということになった。私の体験からすればその通りだと思う。それは園のためであり、最終的には子どものためということである。

園長が謝ることが子どものためになぜなるのかということである。誰が責任を負うかということを確認することは、他者を自由に思う。責任を負ってくれる人がいると子供らが、職員が確信するとき、安心して自由に何事も出来るようになるのではないだろうか。

責任を最終的には負う、これは言葉でなく、生き方で分かってもらえると思う。ここに至るまで自分がもつかどうか不安になるが。この園長に対する最終責任はイエスさまが負ってくださっていると信じている。

甘木通信

初任地でたくさんの行く道を開かれた。着任したとき、引退者住宅があり、渡辺潔牧師、坂根利永牧師がおられた。



渡辺潔牧師は着任前に天に帰られていた。しかし、多くの方から先生のお話を聞いた。

私の主治医であったI先生から「ああいう人を武士と言うんでしょうね。」と尊敬を込めた言葉を言われていた。「毎朝、教会に娘さんと来られ、掃除をし、牧師が起きる前に帰られ、町内の温泉に行っておられた」と信徒さんから。

坂根牧師が天に帰られ、奥様が別府に帰られてきたとき、先生が生前、植えた落花生を取りに来てくださいと言われ、取りに行った。私は実は枝豆のように枝になっていると思っていたら、なんと実は土の中で、掘るんだと知った。まさに花は落ちて地に潜るのであるという不思議に触れた。庭を見ると初めて見た花々があった。その中で今でも覚えているのは当時では珍しかったランタナの花が咲いていた。後年、イスラエルに行ったときにランタナの花を見て感動した。

教会の掃除、花を植えるということを楽しみにしてきた。先週から春の花の苗を購入し、春に向けて花壇、プランターに植え始めた。いつものように淡々と教会の掃除を朝、続けている。

「死せる孔明、生ける仲達を走らす」という故事があるが、天に帰られたお二人から、今も走らされている。掃除をしながら渡辺潔牧師、花を植えながら坂根利永牧師がここにいるように感じている。

(甘木日記)土) 納骨堂の周りの掃除をしていると綺麗な鳥が寄ってくる。感謝の気持ちで鳥が来たのかな。日) 礼拝後すぐに久留米に戻り、幼稚園の説明会を開く。幼稚園のわざは教会の宣教と話す。月) 幼稚園が始まる。収穫感謝、こども祝福式の礼拝。火) どんぐりの実拾いに一番小さなクラストと出かける。水) 昼は幼稚園、夜は相撲を見に来ていた東京の友人と博多で食事。木) 何をしたのか忘れたようだが、無事に終わった。結婚記念日のプレゼントを探し、購入。妻には感謝しかない。金) 主日の準備。メール送信終了。老いは何事も早め、早めに準備。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師) もいますが。



土) 朝6時半に幼稚園の掃除に行く。掃除をしていると切りがない。納骨堂の前の掃除と花を植えていると綺麗な鳥がつかってくる。何かのしるしかな。嬉しく気分が高揚する。9時を回っているのに気づき、松崎保育園「秋まつり」にいく

時間。楽しい保育園の祭り見ながら、ここに種を蒔いたロイド・ネービー牧師夫妻のことを思い出す。先生は私の旧約学の先生で旧約聖書の解釈の仕方と、それ以上に伝道とは何かを教えてくださいました。ここに先生がおられるような爽やかな一瞬。電車に乗り遅れ、次は40分後。家内に「二駅、歩くよ」と言われ従う。ここまで家内の膝も回復しているんだと家内に遅れてとぼとぼ歩く嬉しさと感謝。日) 約束を忘れていたようで、急遽、甘木教会の役員会を来週にさせていただき、久留米教会の信徒会へ幼稚園の説明をしに行く。教会の宣教のわざとして幼稚園活動をしていきたいと力を込めて話す。気力、体力を使い果たしたのか zoom での久留米教会の役員会を忘れて寝ていた。これも老いと、知らされる。少し落ち込む。これで良いのかと自分自身に問う。月) 体が重いが幼稚園に。収穫感謝、子どもの祝福式の礼拝。今日も入園者が決まり、定員まで10名。さらに保育の質を問い続けていきたい。久しぶりに予定はないが詩篇の聖書研究の準備。あろうがあるまいが牧師の仕事、聖書研究は続けよう。家内は干し柿の準備。火) 一番小さな組の子とどんぐりの実の広い。最後の青じそを採って塩漬け。秋が深まりを感じる。水) 朝から幼稚園で仕事、目が疲れて、床で寝て休む。夜は昨日から東京から相撲を見に来ている老舗の跡取りと屋台で夕食。綺麗になっていく博多、東京の街を面白くなくなったと言。 「時には店のことを考えないでいるっていいね」。八十歳、



近くになっている屋台の商店主を見て、「いいね、いいね」の連発。木) 仕事を終わり、結婚記念日の家内へのプレゼント探しに商店街を周る。感謝しても感謝出来ないから、相応しい物を見つけるのは難

(私のソールフードごぼう天うどん) しい。無事に購入。渡すと「ああ」との一言だけ。予想していたが(笑)金) 結婚記念日。夕刻に共通の友人



近くなっている屋台の商店主を見て、「いいね、いいね」の連発。木) 仕事を終わり、結婚記念日の家内へのプレゼント探しに商店街を周る。感謝しても感謝出来ないから、相応しい物を見つけるのは難(私のソールフードごぼう天うどん) しい。無事に購入。渡すと「ああ」との一言だけ。予想していたが(笑)金) 結婚記念日。夕刻に共通の友人

が東京からの帰りに尋ねてくださる。大きなプレゼント。